

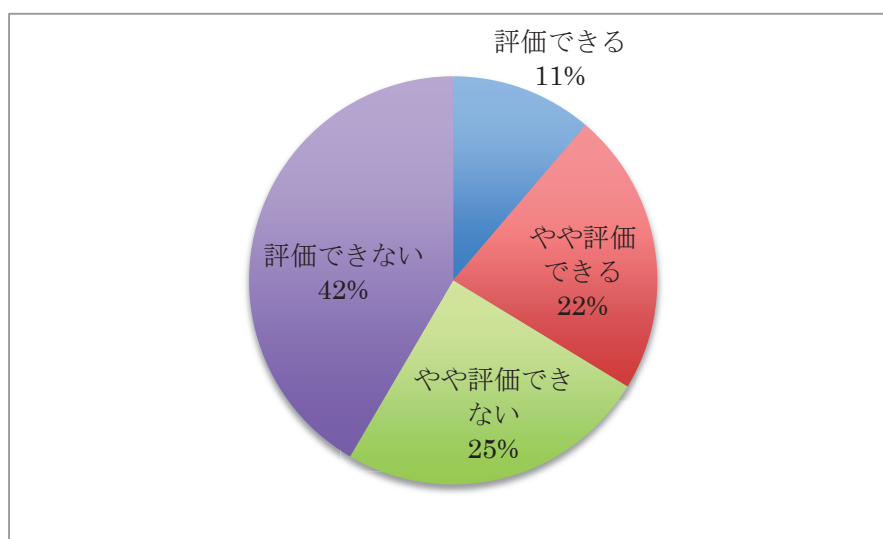
岡山大学執行部森田体制の総括評価アンケート最終まとめ

2016年10月17日

岡山大学職員組合では、次期学長選考を前に現在の森田学長の体制の総括評価アンケートを2016年8月8日から9月23日まで行いました。時間のかかるアンケートであるにも関わらず全部で94回答いただきました。ご協力いただいたみなさま、大変ありがとうございます。本記事ではそのアンケートの結果を簡単にまとめて報告します。主な設問は4つについてまとめます。

設問1 まず森田体制6年間でどのように評価しますか？

(結果)



設問1の森田体制6年間の総合評価では、「評価できる」10回答(11%)、「やや評価できる」20回答(22%)、「やや評価できない」22回答(25%)、「評価できない」37回答(42%)でした。約4割の人が「評価できない」と答えています。「やや評価できない」も合わせると約2/3の人が評価していないという結果となりました。

次に以下の政策に関する評価を設問2、設問3で問いました。

- A) 年俸制導入（希望者のみならず、新規採用すべての教員について年俸制の導入）
- B) 60分4学期制の導入
- C) 教授会権限を縮減し学長権限を強化するガバナンス改革

- D) 美しいキャンパスづくり
- E) スーパーグローバル大学へ立候補し選定されたこと
- F) グローバルパートナーズの設置および戦略的な大学間協定の開拓・交渉など
- G) 海外への日本人留学生送り出し事業、および海外留学生受入事業
- H) マッチングプログラムからグローバル人材育成院設置へ
- D) 地域総合研究センターの設置…地域との連携事業、アクティブラーニングの導入
- J) 専門授業英語化の要請
- K) 教養教育、語学教育の見直し
- L) 一般社団法人大学メディカルセンター（OUMC）構想の立ち上げ
- M) 異分野基礎科学研究所の新設、惑星物質研究所の改組拡充設置
- N) スペースチャージ料の課金、駐車場料金の値上げ
- O) 東北大地震で公務員給与減額にもなっており給与を7%ほど減額せよとの政府の要請に対し、これに応え給与を減額したが、組合の要求に応え減額幅をある程度縮減したこと
- P) 事務量の増加、密度の強化
- Q) 新職種の増加、既設の職場の定員減
- R) 薬学部長等ハラスメント事件等への対処
- S) 学内の全面禁煙化
- T) その他、諸々のこと(次頁の「理由」の欄に、具体的な内容を記入してください)

設問 2 この間の政策で評価できると考えるものを三つ、前頁の A)～T)から選び、政策名の欄へ評価する順に上から並べてください。

評価する理由についても記述して下さい。前頁に挙がっていない政策は政策目に T)とご記入いただき、理由の欄に具体的な内容を記入いただいても結構です。

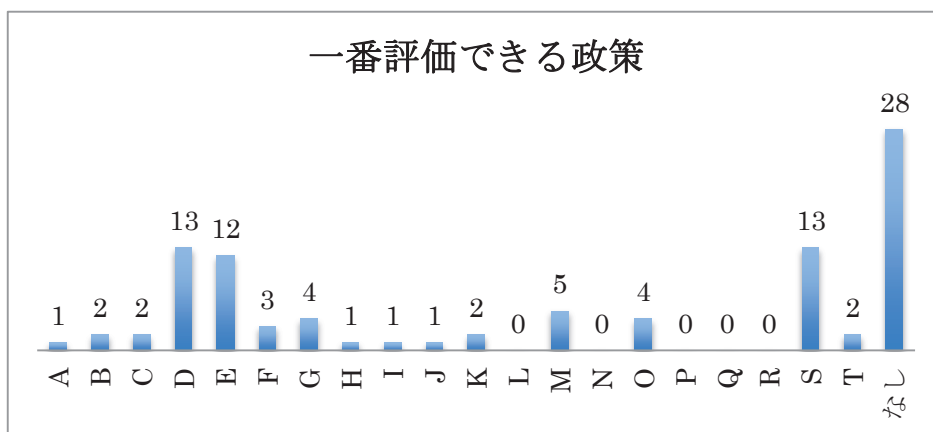
評価できる政策が一つもないと思う場合には「なし」とお書き下さい。

設問 3 この間の政策で評価できないと考えるものを三つ、評価の低い順に挙げて下さい。評価しない理由も記述して下さい。前頁に挙がっていない政策でも結構です。

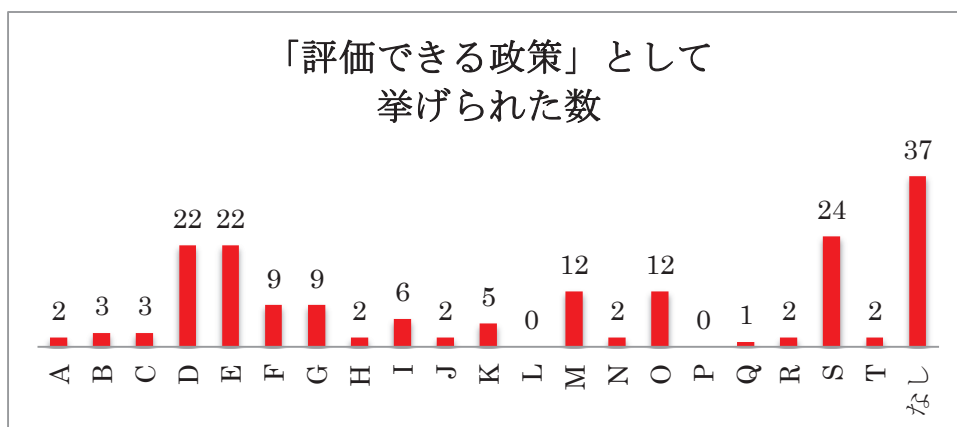
評価できない政策が一つもないと思う場合には「なし」とお書き下さい。

(結果)

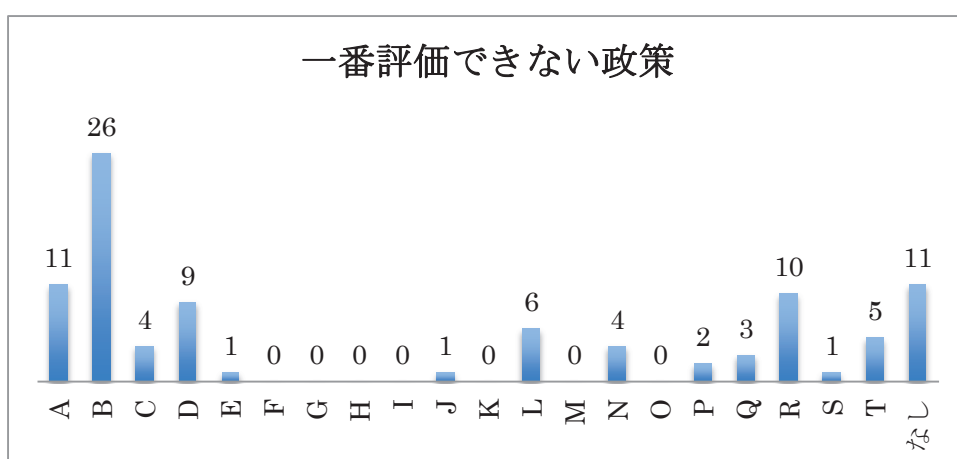
2-1. 一番評価できる政策に挙げられた数



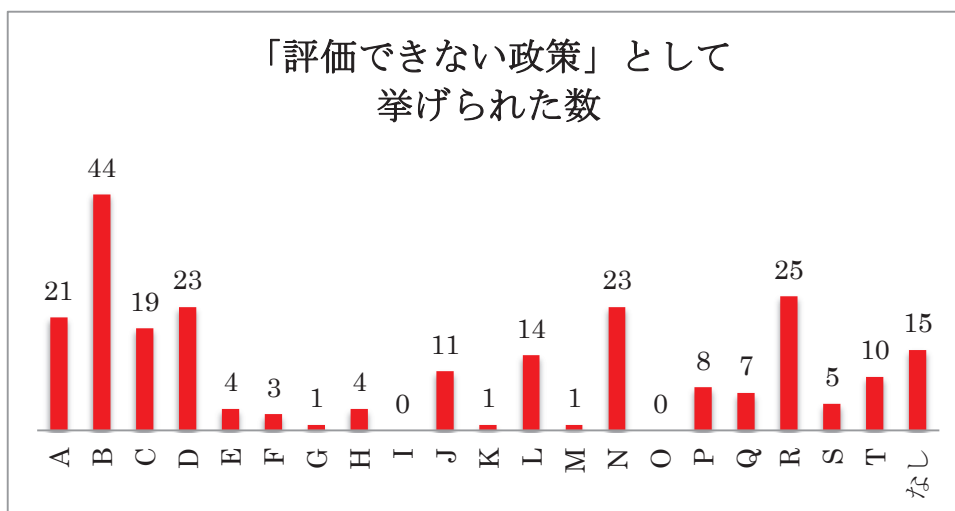
2-2. 順番を問わず「評価できる政策」として挙げられた数の合計



3-1. 一番評価できない政策に挙げられた数



3-2. 順番を問わず「評価できない政策」として挙げられた数の合計



主な政策の項目別の評価を図2に示します。このグラフはそれぞれ3つずつ挙げていただいた「評価できる政策」「評価できない政策」の中に各政策が入っている回答の数を示します。例えば「B) 60分4学期制の導入」では「評価できる政策」3つまでにこの政策を挙げた回答が3、「評価できない政策」3つまでにこの政策を挙げた回答が44あることを示します。

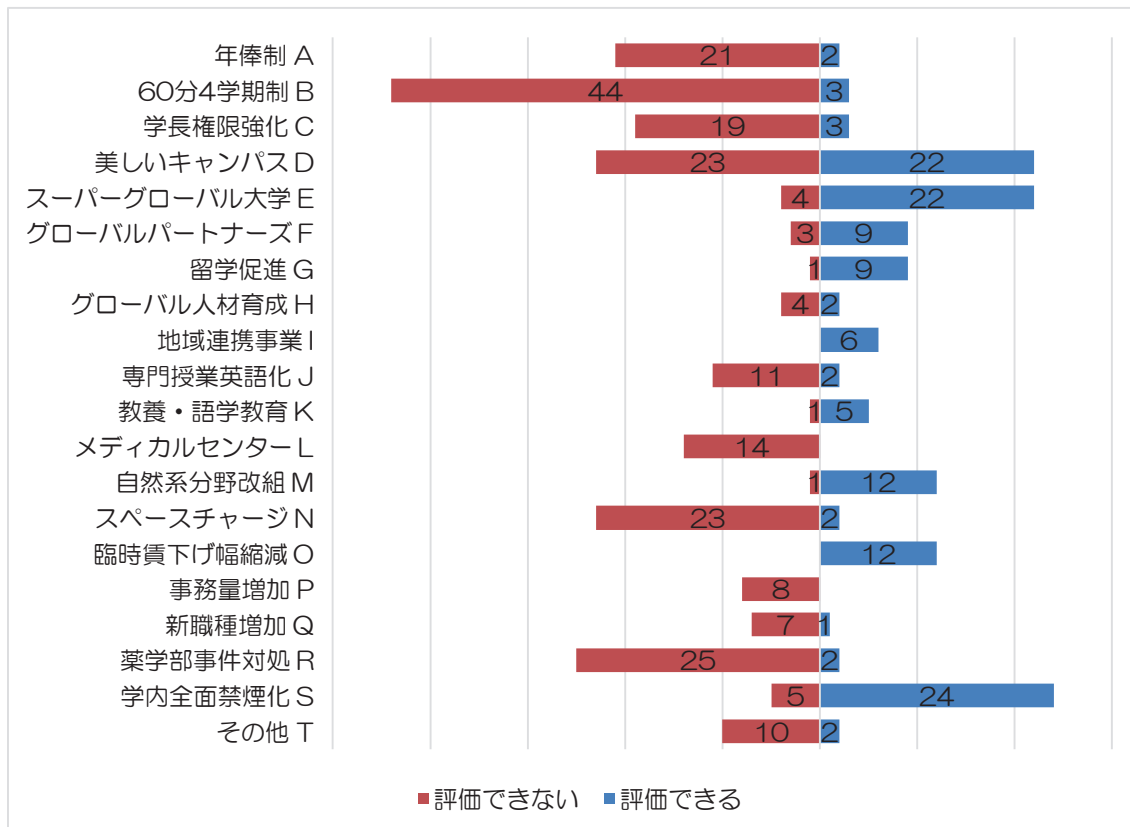


図2 政策毎の評価

政策選択理由

A) 年俸制導入

(評価できる理由)

評価できるとしている回答で理由を記述されたものはありませんでした。

(評価できない理由)

- 同じ公募採用でも新規採用と内部昇任で給与額(グレード)が異なる上に、その後の昇任時の昇給額も違うなど、不合理と思われる点を改正して欲しい。
- メリットがわかりにくい。強引な感じがする。
- 一律に適用するには問題がある
- 昇任により年俸制となり、定年までの見込み収入がかなり減りました。
- 年俸制自体ではなく、その内容が、新任者に強制適用すること。希望者のみ適用すべき。
- 優秀な人材が流出する。
- この悪政により何名の優秀な教員が逃げていったかを他大学と比較すれば、自ずとその選択の罪の深さを知ることになるろう。
- よく解らない評価形式&手当(扶養など)の見直しが悪く、フラット感があるため。被扶養者が出たらどうなるのか？
- 給与を削減する口実でしかない。
- 導入方法にやや強引さを感じる。いずれさらに幅広く適用するとしても、もう少し緩やかな方が、無用な摩擦が少なくなると考える。
- 単なる人件費削減。中の上, 上の下クラスの人材の流出につながるでしょう。組織の未来を考えるとこのクラスの人材流出は致命的。
- 岡大に導入された年俸制では所得が頭打ちになるので, 私大への人材流出をまねくおそれがある
- 今後、教員の劣化を必然的に招く
- 正直に給与削減と言えばいいのに。

B) 60 分授業・4 学期制

(評価できる理由)

- 個人的には、内容に富む質の高い授業が可能になった

(評価できない理由)

- 「学び」に逆行する。無駄なことに時間・労力をかけるだけ。
- 60 分 4 学期 講義ではなく授業化してしまった。教養の階段混雑が毎時間発生し 10 分の休憩では時間が足りない
- 結果として 1 日の授業時間が多くなり、学生の集中力がなくなっている。履修数の上限が 80%になってしまい、また、開講授業の重なりが増えてしまうことになり、教員免許の複数取得の難易度が格段に上がり、学生に不利益になった。結果的に授業間の休憩が 10 分に戻ってしまい、移動が困難に。問題があるから 15 分にしたのに、結局問題を元に戻してしまうという意味不明の流れに。などなど多くの問題が発生することはわかりきっていたのに、執行部の思い付きからわずか 1 年半で実施してしまったことは、頭の悪い人間が独裁をすることの典型的な悪事例だった。
- 60 分クォーターにする意義のみえないまま、学問領域や学部教育によってはマイナスとなってしまうにもかかわらず、これを実行し、かついまだに意義のみえないままであること。
- すぎに(注:原文ママ)効果が見られないかもしれないですが、仕事の量が大幅に増えてつらい。外国の学期とやはり合わない。
- とにかく学生の理解が得られていない。(もちろん教職員も)学生は不満でいっぱいです。
- なぜ 60 分・4 学期制を導入するのかについて、教職員及び学生に対し、何も説明していない。常識ではありえないやり方だ。
- ほとんどメリットがない。新入生からも不評
- 学生・教員 共に負担が大きい
- 学生・教職員ともに負担が増えたわりに利益が少ない。時間割を組みにくくなった。
- 学生と教職員のメリット、現状を見ていない。
- 急いですすめすぎ。準備・検討が不十分。
- 教育分野であまりにも大きな変革を急激に行うことは百害あって一利なし。学生の立場に立った改革でない事は明らか。

- 教授が研究室の学生の指導にさく時間がかかり減った。
- 授業外で自習をすることを求められず、主体的な学びとは相反するため
- 誰もよろこんでいない。かわりに何かの仕事を減らさないと自殺行為。
- 学生、教員のいずれも支持していない、大学に不可逆の致命的な悪影響を与えうる改悪を強要した、最悪の政策。60分制授業が教育に与える影響、教員の研究に与える影響をモニタリングし、利益よりも不利益が大きいというエビデンスがあれば、早急に廃止すべき。
- 60分4学期制の導入:海外の大学に合わせるための4学期制は賛成だけど、90分授業(注:原文ママ)は何が良いのかまったく意味不明。ご自分で授業をされてみたらいかがか？
- 60分授業にともない、教員も学生も負担増だ
- 学生に不評。教員負担も大きい。
- 学生の負担が大きすぎる。(教員も)
- 学内議論を経ないまま、学生を顧みない制度変更を強行した
- 教員・学生共に負担増と思われる
- 現場の事情を考慮することなく上から押し付けるだけではうまく進まないと思う。周知期間を長く設けたからといって、それで物事がスムーズに進む訳ではない。
- 時期尚早。学生にも教員側にも全くメリットがないと考える。
- 60分授業:誰も徳をしない多忙になるだけ
- まじめにやりすぎて、皆疲れきっている。
- 結局労働の負荷がかかり、教員は疲れ切っている。1~2学期程度は研究に専念できると聞いていたが、一年を通じて授業があり、調整は二の次。これでは健康を損ない、研究どころではない。
- 時間を短くしたことで、授業内容が軽薄化する弊害が発生しがち。形式にとられずに、試行錯誤して少しずつ改善していくのが自然である。混乱を恐れずに、早期に2学期制に戻す方が、総合的に判断して、岡大の今後のためには良い。(それぞれには、一長一短がありますが)
- 長期間かけて、じっくり勉強させる大学教育を無視している。短期間に学期をわけて、大学教育を軽薄なものにした。
- 理念なき改革

C) ガバナンス改革

(評価できる理由)

- もっとやって教員の仕事を減らして欲しい。一部の教授には、仕事＝会議出席と勘違いされている方が多いので。

(評価できない理由)

- 学部の個性が低下しただけで、Top・上層部の中途半端な理念・指導力のため、国際関係学部ができなかった(類似の学部を創造した大学があるのに)。結果的に、お茶を濁した格好で計画を矮小化し、MPの再編?ほかになりつつある。
- 人文系の軽視
- 民主主義を無視。教授会の形骸化
- トップダウンをいように解釈し、都合良く(悪く)利用した。教授会をないがしろにした。
- 学長がどこまで現場を分かっていますか。まだトップダウンの指示が指示になっていない。会社で言うビジネスモデルがまったくくない。
- 教授会が空洞し、考えることを停止している点
- 全く民主的でなく話にならない
- 民主主義的手続きの尊重が欠けている
- 多様な意見が出てくる機会が無くなる
- 結果として現場の人の意見を聞かない政策が増えました
- 「学生を見ず」「教員を見ず」さらには「未来をみることなし」に文科省の妄想計画を鵜呑みに猛進するイエスマンが描く未来像は空疎である。
- ガバナンスの強化と、学長含む執行部の好きなことを好きにやれることの違いを混同されている。民主的なプロセスをふんでいない。
- ガバナンス強化の名のもとに執行部の独断がまかり通る体制を築いた
- 権力の一極集中は、いずれ危機を招く
- 学長のみの特権の強化は危険だと思う。

D) 美しいキャンパスづくり

(評価できる理由)

- 以前よりもキャンパス全体が広々と感じられるようになり、学生目線としてはより“通ってみたい大学”になったのではないかと思います。
- 大学のイメージアップにつながる
- 大学がきれいになった。誇りが持てる
- 南北道路はきれいになった
- 農学部前の歩道の段差がなくなり、車いすの方の歩行、自転車が安全に通れるようになった。
- 実用性には疑問が残るものの、津島キャンパスは確かにデザインが統一され、客観的に見て美しくなったと思う。
- 投資金額の相当性という問題はあるだろうが、大学が明るくなった。以前は木が鬱蒼として暗かったが、視界が開けた。防犯・安全のためにももっと外灯を増やしてほしいと思う。
- 岡大筋の歩道が広くなって通行しやすくなった
- 南北通りの入り口から正門までが歩きやすくなり、自転車と歩行者の衝突の危険性が減った。
- やるといってちゃんとやったのは評価できる。南北通りは確かにきれいに、安全になった。
- 景観の美しさは必要である
- 校内の壁をとりさり、リベラルな雰囲気を作り上げている。禁煙対策にリーダーシップを発揮した。
- 快適な空間は業務効率を上げ、帰属意識を高めるため
- 環境整備が必要

(評価できない理由)

- いい加減にしろと言いたい。10年20年後に評価と言っているか？鹿田では、10年前を評価している人は居ない
- 学生会館の前は誰も寄りつかなくなっている。
- 間接経費のムダ遣いにしか思えない。
- 勤務地近くでは、実行されていないと感じるため。
- 研究・教育を前提に考えるべきじゃないでしょうか。場合によっては、森林を減らして研究に使えないのか。

- 土木工事： お金の無駄
- 老朽配管（建物内、地下）、構内道路の維持管理など、「みため」の美しさよりも、インフラの維持管理に、もっと長期的視点（30年ぐらい）を持って目を向けるべき。
- 無駄な構造物（モニュメント等）が多いように感じる。
- 4学期制で不足している教室・実験室の拡充、および老朽化した設備の更新など、学生への教育サービスの充実にお金を使う方ことを優先すべきだと強く思う。
- ムダな工事ばかりして、お金のムダ使い
- 外見の建物や道路を綺麗にしても、外からは見えない学生達が使う施設はまだまだ古く汚い所がある。
- 予算が厳しいのに、必要性の薄い工事に大金をかけることが理解できない。緑が少なくなった点では悪くなった。
- お金の無駄でした。
- 外からの見た目だけで中身が伴っていないように思う。
- 環境美化に経費をかけすぎているように見えるため。教職員や学生の意見を取り入れて検討してもらいたい。デザインも重要だが、実用性に欠けていると思う。
- 学生の事を考えられていないキャンパス作りだと思う。
- 学生の声を聞いたことがありますか？ 大学会館前はまぶしくて夏場歩けない。お金が余っているなら体育館整備を、などの声が大変多いです。
- 整備したい気持ちはわかるのですが、財政的な面や出来上がるものの評価など見通しが甘く、結果的に大学構成員の役に立たないものになってしまった面があると思います。

E) スーパーグローバル大学

(評価できる理由)

- 日本における岡山大学の序列を上位にした。これは素晴らしい。
- 前向きなチャレンジ
- スーパーグローバル大学：岡大の地位を向上させた
- 岡山大学の沈滞を一定程度防いでいる
- 国際的になった。
- 乗り遅れたら なにかと不利になる
- 足元を固めるにも、世界の情勢に通じた方が良いから
- 大学がグローバル展開を図る事は必然的方向であり、SGU に採択されたことは、本学の評価を高め、予算を増加させた。
- 予算的には厳しいが、??? (注:原文ママ)意識は変わった。
- 旧帝大に比べると地方大学はどうしてもワンランク下がる印象を持たれてしまいましたが、スーパーグローバル大学への選定により他大学とは一線を画すことができ、これから進学を考えている高校生たちの目には魅力的に映っているのではないかと思います。
- 選ばれなくてもおかしくなかったが、根回しがよかった。
- 大学が向かう方向を定めることができた
- 大学の生き残りがかかっている時期に、評価を得られただけでなく、実行できていることは、限りなく重要であると考えます。

(評価できない理由)

- 「毒まんじゅう」を食らうことになりました
- 見かけのこと、流行に従っているだけ。本当に大切なことが何かを考えていない。

F) グローバルパートナーズ・大学間協定

(評価できる理由)

- 大学のグローバル化は避けられないが、こちら側にも有益な形で進めていて頂きたい。
- 学内の体制が少しはよくなった
- 足元を固めるにも、世界の情勢に通じた方が良いから
- 国際化は大学の将来にとって不可欠
- 大学の生き残りがかかっている時期に、評価を得られただけでなく、実行できていることは、限りなく重要であると考えます。

(評価できない理由)

- 全く実効性なし。
- 大学の規模、マンパワーを考えて組織を作って欲しい。新しい組織を作ったら、その規模に見合う組織を廃止する。

G) 海外への日本人留学生送り出し事業，海外留学生受入事業

(評価できる理由)

- 国際交流がしやすくなった。今後も継続的な支援を是非お願いしたい。
- 国際的な視野が各教員レベルで高まった。
- 世界に目を向けて
- 外国人が増えた
- 留学促進は未来へのもっとも有効な投資の1つ
- 足元を固めるにも、世界の情勢に通じた方が良いから
- 留学生支援は、グローバル化の意味でも、本学の教育研究を高める意味でも推進したい。特に日本人学生に留学経験は貴重だ。

(評価できない理由)

- 体制づくりの前に数だけ先行し、中身のないものになっている。実態は変わっておらず、どうやって数に上げるかに労力をさき、むだな仕事が増えている。

H) グローバル人材育成院

(評価できる理由)

- 既存の枠組み、これまでの経験を活かし発展した所が評価されるため
- 成果はこれから

(評価できない理由)

- そもそも大きな問題を抱えていたMPコースを総括する事なく、それを拡大させようとする政策。現状の問題点を把握し、可能であれば改善し、改善が不可能な場合には廃止するという柔軟な対応を放棄している点が問題。結果を問わないやりっぱなし政策は、経験に学ばない愚かな政策と思う。
- マッチングプログラムは廃止すべきであった。グローバルコースは更にまずい。
- 何でも文科省の言いなりになり、すぐグローバルを押し出している。

I) 地域総合研究センターの設置

(評価できる理由)

- 地域との連携は、今後の大学が置かれる環境を考えれば、大学全体としてさらに推進しなければならないことである。アクティブラーニングを含め、多様な学び方を保証することは必須である。また、大学全体として、知識の習得を主たる目的としたスタイルから、知識を習得したうえで、さらにその活用を前提としたスタイルへと早期に転換していかなければならないと考える。
- 地域と連携することにより、地域における存在意義を高めること、本学の教育研究を高めることができる。グローバル化と並ぶ重要政策である。
- 地域社会の活性化に寄与する姿勢を見せた
- 地域に根差した大学作り
- 大学の現代的役割として当然。遅きに失したぐらい。

(評価できない理由)

この政策を評価できないものに挙げた回答はありませんでした。

J) 専門授業英語化の要請

(評価できる理由)

- Eを実施するための必要不可欠の一環である

(評価できない理由)

- 無意味
- 大阪大のある理系学部では、オムニバスで各教員1コマ担当であったが、英語授業は10年以上前から始まっている。時代の流れであり、英語授業は必然である。もっと強制してもよいくらいと思う。
- 学生の能力を下げる事につながりかねない。
- 学生の立場で考えるべき
- 議論の深まりがない。薄く浅い知識。プアな英語の学内における使用は、外部に恥をさらす。
- 日本語で世界に通じる研究・教育が受けられることも効率性等メリットを軽視している。
- 急いで進めすぎ。準備・検討が不十分。
- 高度な教育, 学習は母国語でなければならない。英語力は上がっても中身の教育のレベルを下げるだけ。中身が中途半端な英語ができる人材は世界中のどこも必要としない。

K) 教養教育、語学教育の見直し

(評価できる理由)

- 教育の充実である為
- 演習の時間がとれるようになったのは良いが、学生の休憩・移動時間確保のためにできればもう少し余裕がほしい。(55分授業にするなど)

(評価できない理由)

この政策を評価できないとした回答で理由を記述してあるものはありませんでした。

L) OUMC 構想

(評価できる理由)

この政策を評価できるものに挙げた回答はありませんでした。

(評価できない理由)

- 職員の身分が不安定になる
- かなり今後不安である
- 説明不十分
- 天下り先が欲しいとしか思えない
- 別法人化は、問題あり！
- 考え方は理解が出来るが、現実に実現するにはハードルが高い。最終形の病院統合はそれぞれの出身母体のカラーもあるため到底ムリに思われる。コンソーシアム程度の緩い共同体を目指す妥協点が見いだせない完璧主義が弊害になっていないか？
- 性急すぎる感があり、岡山大学全体の事業という感じに受け取れない。
- 結局は、岡大の学閥を広げたいだけ、という気がしている。
- 学長の独りよがりの政策
- 最終的に何を目標しているのかが示されていない

M) 異分野基礎科学研究所の新設、惑星物質研究所の改組拡充

(評価できる理由)

- 関係者の皆さまの多大なるご努力に敬意を表します。
- 研究の活性化・促進に繋がる。岡大の知名度を上げる。
- 新しい分野へ
- 先端的研究の推進に貢献
- つよみを育てるのはよいと思う
- 大学の本業たる研究所を3つ保有し、地方大学でありながら存在感をアピールした。
- 研究力 up を示すことができた
- 内容は別として、研究所ができたのは大学としてアピール度は高い。

(評価できない理由)

- 異分野の融合ではない学際領域にも相当しない、形だけ。

N) スペースチャージ料の課金、駐車場料金値上げ

(評価できる理由)

- 構内を駐車場がわりに使う外部者が減った。
- 施設の維持管理の独立採算を目指すのは当然。

(評価できない理由)

- エキストラに部屋を借りているなら理解できるが、もともと割り当てられている部屋にスペースチャージが課金される意味が理解できないし、説明不足。
- まず、駐車料金の値上げ幅に対して、十分に納得できる説明がなされていない。また、「お金に色はついていない」ことは理解できるが、いわゆる一般財源化により、当初の目的から明確に異なっていることに対しても、納得できる説明がない。最低限、納得できる説明が必要と考える。
- やり過ぎ行き過ぎ
- 車通勤可(駐車場無料)ということも条件に勤めはじめたが、駐車場代が有料になった上、5キロ以上離れていないと車通勤できないというのは納得できない。近くても荷物の関係や、行き帰りに私用もあるため、待遇がよくない。特に非常勤職員は、時給も他機関に比べ少ない上、駐車場料金も高額であれば、良い人材が他へ流れてしまうと思う。
- スペースは提供されるべき！金がない！
- せちがらすぎる
- 今後次々と値上げされることが不安
- 駐車場料金の値上げは、単なる通勤手当の減額にすぎない。ちゃんとした労組のある民間ではあり得ないことと考えます。スペースチャージも単なる運営費交付金配分の減額にすぎません。
- 利用者(外部)の人には嬉しいが、職員(特に非常勤)には苦しい。
- 景観を良くするためだけの構造物を建てる費用はこちらへ充ててほしい。
- 学内からお金を捻出しようとしているように見えるから
- 会計報告すべき！
- 給与を削減する口実でしかない。
- 根拠の乏しい増収策としか思えない
- 支出を明確にしてもらっていないのに、“増税”はおかしい。教育・研究の成果基準は妥当とは思えない。大学としてのグローバルの意味が不明。
- 組織内の流用にすぎない

- マネージメントのまずさを露呈したもの。

0) 給与減額幅を減らしたこと

(評価できる理由)

- 組合と話し合って、賃下げの巾を小さくした。
- 組合の交渉をかたちにしたため
- 対外的な圧力に屈せず、内情に合わせた行動のため
- 大学として努力をしたと思います。
- 政府の言いなりにならなかったのがよい。もっと構成員の幸せを考えてほしい。
- 何はともあれ、大学独自の方針を実行できたことは重要と考える。

(評価できない理由)

この政策を評価できないものに挙げた回答はありませんでした。

P) 事務量の増加、密度の強化

(評価できる理由)

この政策を評価できるものに挙げた回答はありませんでした。

(評価できない理由)

- ただでさえ毎日詰めて仕事をしているところに、さらに仕事を増やしてどうするつもりでしょう？暇を持て余している部署など無い、というのが私の認識です。職員を過労で倒れさせるのが目的でしょうか？個々の能力は限られています。事務量を増やすにあたっては、密度を増やすのではなく、人員を増やすべきでしょう。
- 結局誰が得をしているのでしょうか？
- 事務職員の非効率化を引き起こした
- 現場の大変さを理解していないように見えるから
- 産学連携を試みている研究者が現場で感じたこととして、相手企業からの大学事務方への評価が極端に低い。典型的な殿様商法、縦割りなため、産学連携においては、事務手続きがボトルネックになっている。同様に留学生受入についても事務手続きが完全なボトルネックになっている。そもそも受け入れ体制ができていない。学内で留学生を受け入れることができる職員は、研究のアクティビティが高い人に限られている。つまり研究活動で忙しい立場であるにも関わらず、膨大な書類を書かされる、しかもそれらの手続きは職員自ら複数の事務方を回ってしないとイケない。特に印象的だった事務手続きは、やってもいない講義のシラバスを書かされ、サインさせられる身になって欲しい。これではまさに不正と言われても仕方がない。
- それに対する十分な手当てがなされていない。
- 事務職員の士気と資質が低すぎることのほうが問題。私学に比べ、内製化されている業務があまりにも多く、ルーティンワークが大半を占める部課は、部課ごと外部委託するなど、抜本的に外部委託を進めるべき。補佐人を含め、法人が雇用する職員は、もっと創造的な業務に特化すべき。

Q) 新職種の増加、既設の職場の定員減

(評価できる理由)

- 異色の経歴の方の存在は、組織の活性化につながるため

(評価できない理由)

- 現場の大変さを理解していないように見えるから
- 教員の定員減により学部の研究・教育水準が大幅に低下した
- 管理職だけ増えて、事務量が増える一方。
- 人文系の軽視
- 知らない間に〇〇〇センターがたくさんできて、ほとんど教育・研究をしない教員ポストが設置され、意味がない。
- スーパーグローバル大学に選定され、やるべき仕事が増える中、それに合わせて人も増やすのが当然です。この政策は、本来行うべき方向から逆行しているとしか思えません。

R) 薬学部問題

(評価できる理由)

この政策を評価できるものとして挙げた回答の中で理由を記したものはありませんでした。

(評価できない理由)

- 大学の評判を地に落とした
- 日本全国に岡山大学の恥をさらした
- 情報が全く知らされていない
- 内容を構成員に丁寧に説明しておらず、裁判も負けそうだし、大学の名誉を傷つけた。
- この対応はあまりにも情けない。恥ずかしい。
- 何が起こったのかさっぱりわからないが、どう見ても大学の説明はおかしい。情報を開示し説明を行うべき。非があるならごまかすことなく認める姿勢が必要。こういうことをうやむやにするのは絶対にしてはならないこと。
- 真相を明らかにしてほしい。
- 説明不足による不信感が増した。論文不正をあやふやにしての解雇は無いと考える。強引な解雇をみると、学長側に否があるのではと思ってしまう。
- 事実上敗訴したにも拘わらず、これを認めていない。
- 職権乱用。これもハラスメントなのでは？
- 大学権力の濫用により、事実をねじ曲げ、真実を隠蔽したままである。裁判は誤審である(あった)と考えている。現状では、司法権の独立性に大きく失望しており、何も期待できなくなっている。
- 透明性の欠如
- どうもおかしい。
- マネジメント能力欠如の最たるもの。従って、これ以下の学長は、2度と出ることはない。安心できる。
- 学長側の対応に問題がありすぎる
- 森山教授への不利益取？(注:原文ママ)は、解雇するほどのことではない。
- 正当な解雇理由がないことは明らかなのに解雇し、本学の評価を低下させた。
- 学長も関与したと言われる大スキャンダルなのに、学長からはまともな説明

もなく、事実を隠蔽しようとしているように思えてならない。潔白を主張する
なら、学内で公開質問会などを行うべきではなかったかと思う。

- 不明な事が多すぎるため、万人に分かる形での対応をして頂きたい
- 虚偽事項を作成し、無実者を貶める措置は、今年度中に司法からの鉄槌を受けようとしている。本人は、高額な退職金を抱えて天下りを計画している一方で、本裁判の敗訴処理を国税である多額の裁判費用とともに大学に押し付けようとしている。
- 大学人としての見識を疑わせるあまりにひどい対応

S) 学内の全面禁煙化

(評価できる理由)

- 「学内の全面禁煙化」は常識。既に公立の小中高校ではほぼ行き渡っていることを考えれば、遅きに失していると言ってもよいぐらいである。
- 禁煙自体は問題ないが、単に、全面禁煙とするのではなく、地域住民を配慮した対応をすべきじゃないでしょうか。
- 健康のためにも良いと感じたから
- 若者の喫煙率の減少が期待され、長期的な健康影響にも関わる、受動の喫煙の被害も低減された。
- 職員・学生の健康面からもプラスな事業であると思う
- 世の中の流れに沿っている。
- 非喫煙者はもとより喫煙者の禁煙サポートとしても有効
- 社会の流れとして当然。遅きに失したぐらい。
- 近年、全面禁煙が当たり前になっていることもあり、職場内や学外者にとっても良かったから。但し、ポイ捨ても目立つため、喫煙スペースを設けた方がよいのではないかと思う
- 喫煙者以外の人への健康被害が起こる危険性が減った。
- 公共の場では当然である
- 若い人たちがタバコを吸わなくなった

(評価できない理由)

- マナーの悪い教職員、学生を構外に追い出したのみ
- キャンパス外壁の外側での喫煙を増やしただけ。恥ずかしい光景です。壁の内側に喫煙所を作れば良いだけ。喫煙者のアクティビティを著しく低下させています。
- 学内に分煙できる空間がないと喫煙者はかわいそう。
- 全面禁煙にしたために学外で喫煙する人が増え、近隣に迷惑をかけている。「臭いものに蓋」で喫煙者を追いやるのではなく、喫煙者はゼロにはならないという前提で対策を考えるべき。灰皿の掃除を当番制にするなど、どうですか？
- 完全ではない。出入口付近で喫煙していて迷惑に感じる

T) その他

(評価できること)

- ブロードリゼーションとPR強化 / 学長自らブロードリゼーションの必要性を訴え、リーダーシップを発揮した。率先してPRを強化した。
- リサーチユニバーシティに選ばれた(根回しに対して)

(評価できないこと)

- どの政策でどう変化しているのか、学校園では分かりにくく何とも言えません。
- 会議体の見直しと組織改善 / 何も発言しないメンバーがたくさんいる会議は非効率。全体的に集まる会議がマンネリ化している感あり。組織の活性化が図られていない。
- 学生のTA RAに関して、今年度は予算がなく、廃止ということだが、その事を、今までホームページにも公開せず、学生たちにも知らせていない。
- 教務システムの使いにくさに辟易する(他大学から来た)。事務の会計の使いにくさに辟易する。つまり、外向きはよくなったけど、内側がよくなっていないということです。
- 教員再配置: 意味不明
- 役職名の過多 / 副や補佐名の過多。役職手当の見直しも必要かと思える。
- 岡山大学のロゴ(現在はブルーのもの)のデザインが好印象ではない。ロゴやイメージカラーがコロコロと変わるのは、大学が安っぽく見えるため。
- 同窓会(特に海外)の非効率性 / 海外同窓会の実態・効果が表れない。多大な費用に対する費用効果制に疑問がある。
- 個人的な立場からの話になりますが、研究費で雇用されている研究員に、外部資金の申請資格が認められていないというのはいかがなものかと。私がこれまで経験してきた他の研究所や旧帝大ではそういうことは無く、むしろ外部資金の獲得が推奨されていて、事務の方々も非常に協力的でした。外部資金の獲得は個々の研究者自身のためでもあり、また大学の業績やアクティビティの向上にもつながるはずです。それが考慮されていないところは、ワンランク上の大学、および研究所から一歩も二歩も遅れをとっていると言わざるを得ません。

設問 4 現在、岡山大学は良い方向に向かっていると思いますか。感想をお書き下さい。問題があるとすれば何が問題ですか。

- 現状では不明であるが、「地域・特色・世界」の3つの枠組みで世界を選択したことの不安はある。また、SGUに選定されてものの軌道に乗って収益化が計れる事業無いよ(注:原文ママ)とは思えない。
- 「考えてから行動する」という知識階級のあるべき姿勢が失われており、極端に悪化している。
- OUMC 構想においては、大学全体のメリットが不透明。
- どこに向かっているか、わからない。
- わからない。よくわからない取り組みのために、仕事に支障が出ている。
- 岡山という地で活躍できる人の育成(または中国、四国、山陰)に焦点をあわせた教育方法を考えることが必要だと思います。
- 現時点ではわかりません。ただ、”岡大のために働きたい”と思えるように、もっと教職員の満足度が高まるような改革をしてもらいたい。
- 今のままでは、いずれ総合でも大学でもない団体になるように感じている。世の流れにはさからえない部分もあるため、いたしかたないかもしれないが、学問を修める場であることを、より深く自覚すべきだと思っている。
- 思わない。60分・クォーター、グローバルディスカバリーなど最悪。
- 思わない。学生・教職員の意見を聞き入れない。聞いても反映されない。
- 全く思わない。大学の方向性を左右する学長、理事が問題。自分たちの実績作りのために強引に行なう事が、大学にとって良い事になっていない。
- 特に悪い方向に向かっているとまでは言えない。薬学部問題が残念。
- 文科省の施策が全て良いものであるという固定観念があるところが問題。良い方向に向かっているとは、とうてい思えません。
- 方向が良いと思いますが、新たな取り組みに対し、部局間の温度差があります。皆様はそれぞれの理解・解釈でバラバラに動いている傾向があります。
- 良い方向に向かっている。森田学長は岡山大学の学長として存在感とパワーを発揮したと思える。
- 良い方向に向かっていると感じる。より良い学生を受け入れるためにも、学生に媚びないように教員はすべきである。
- まだまだ攻めるべき
- 悪い方向に向かっていると思う。
- 運営交付金を増やしてほしい。理事が無駄使いしてお金が減っている。
- 現在の政策がどこにつながっているのか不明。政策は5年後、10年後のために行われるものだ

が、現在の岡山大学はどこにむかっているのか。横文字を多用するが、それぞれ定義はなんなのか？またその投資先は正しいとは思えない。

- 最悪の方向にむかっています。
- 思わない。1. 無駄使い(環境美化) 2. 労働量が多すぎ。
- 思わない。何でもかんでも文科省の言いなりになり、また、地方の中堅大学という立場を見失って、改革ばかりして、みんな息切れしている。
- 思わない。学内のことを第一に考えていない。
- 思わない。広島大学に大きく遅れをとっている。文科省の言いなり。
- 中身に反して、見栄えはよい方向に向かっている
- 特にありません
- 本学のグローバル化のために、どのような政策や事業を実施するかについては、個々に慎重に検討して進めるべきと思う。例えば、授業の英語化は、教員の負担を大幅に増やし、研究水準の低下につながる可能性が高い。また、学生は授業が理解できず、教育効果が低下する。
- わかりません。
- 60分4学期制など他大学がやりそうにない改革を行い特色を出そうと努力しているのは認めるが、教員・職員・学生がみなやる気を出せるような雰囲気作りに失敗している。
- GPAを一点きざみにしたのは改悪。大学4年間で、一点きざみのセンターの発想を改めさせて、クオリティの高い思考法を教えなくてはならないのに、大学にも一点きざみを導入した。これで大学の中核に本気で教育を考えている人がいないことが、よくわかった。
- あまり思わない。研究分野間での支援の偏りが著しいと感じる(無料で購読できるジャーナルの分野の偏りなど)。特に若手の研究者にとっては死活問題である。
- いい方向に向かっていると思います。
- いい方向へ向かっていると思います。足元を見ながら進んでもらいたい。
- どちらでもない。
- トップダウンという名の暴走が許されている
- はい
- もっと高い理想を抱いた指導体制が望ましい
- よくわからない
- 悪い方向: 国立大の中で最初に墜落するのが岡山大学。文科省のいいなりになっていては、駄目。新しい提案をし、実際に成功させていくことが大切。
- 悪い方向へ向かっている。60分・クォーターは学生からも評判悪く改善につながっていない。一度決まったら金額が上がらない年俸制は、若手に出て行けと言っているようなもの。さらに研究室へ

来る運営費交付金は大幅に減っているにもかかわらず、派手な道路工事ばかり行っている。本当に教職員、学生が何を望んでいるのかを全く無視しており、ここまでひどい学長も珍しいのではないか。

- 悪い方向へ向かっている。学内の英知を結集するためには民主主義が必要である。
- 一刻も早く学長を交代(替)させることが、良い方向へ向かう第一歩。自由闊達な開かれた空気を学内へ！！
- 運営費交付金の減額や、コンプライアンスの過剰強化などは、岡山大学だけではない、全国の地方国立大学で共通の問題と思われる。その中であって、文科省の政策に振り回され(スーパーグローバル大学等々)、コンプライアンスの過剰強化による事務作業量の激増などの現状からは、良い方向に向かっているとは思えない。遠く無い将来に予想される、学生数の減少に伴う職員数の大幅削減に備えて、学内の様々な仕組みを効率化し、リスクとコストを考慮した上で、適切なコンプライアンスレベルを設定していく事が必要と思う。
- 何がしたいのか理解できない。理事も統制がとれていない
- 何かを変えようとしているところは良いのですが、方向性としてはどうかと。個人的な意見としては、職員が個々の能力を十分に発揮出来る環境が調っていないのが、一番の問題かと思います。森田体制は、表向きには改革をしているのかもしれませんが、それを支える内部の職員のことをきちんと考えていたようには思えません。優秀な学生を育てるには、教員や事務員が適切な仕事量で、より少ないストレスで働ける環境を調えるべきかと思います。
- 確実に悪い方向に向かっている。グローバルで求められる人材を完全に履き違えている。岡山大学だけの問題ではないですが。
- 学生の声を聞いて下さい。
- 学長・執行部の即時退陣を求める。文科省が描いた夢物語に媚びるために、学生・教員を御することを政策とする者に学長・執行部としての資格はない。
- 基本的には良い方向に向かっていると考えます。問題はあります。それは、大学の変化に対して、ステークホルダーが十分に関わっていないことです。少なくとも教職員をもっと巻き込むような手法をとる必要があると思います。
- 教員の負担増
- 向かっているとは言い難い
- 国際化がアジア中心。もっと欧米にも力を注ぐべき
- 思いません。
- 思わない。教職員の労働環境があまりにひどい。事務の方の過度な残業、教員も授業だけでなく研究をするために日々残業せずには、ある水準を保つことはできない。土日も返上。残業では、体

が休まらない。出産をしたいと考える女性研究者にとっては地獄でしかない。

- 思わない。国立大学としての使命を果たすこと、および法令遵守といった原則的なことが蔑ろにされ、個人の私的な思惑が優先されることが目立つ。トップに問題がある状況においても、構成員はそれぞれが社会に対する責務を果たすべきである。トップの命令であれば、違法性のあることも厭わないという一部の教職員の姿勢には大きな疑問を感じている。岡山大学が特殊とは思わないが、将来的にはこのようなマインドセットでは組織としての未来はないと思う。
- 思わない。薬学部長等ハラスメント事件が大問題であると考えます。
- 執行部に長期的視点が欠けているのではと思わざるをえない。
- 執行部の案がトップダウンで実行され、議論の余地がない。
- 縦横の風通しが悪くなっているように思います。
- 色々なことに手を広げすぎて、これにともなう新機関設置への人件費が、肝心の基本的な教育・研究予算を逼迫しています。まずは足下を固める施策が必要と思います。
- 新しい学長になった時、正直改革に期待した。しかし、強権でこれまでに最も評価できない。理事の人選も不適當。
- 前に進もうとしているように感じるが、目的や目標の共有ができていないように思う。
- 前項目と重複するが、お金の使い方など迷走しているように感じる。
- 全体的に議論が出来る空間があるように思う。ただし、学内の取り組みに参加している教員と全く関わらない教員との溝があるような印象はある。
- 早稲田や立命館のように、事務職員の資質と士気が抜本的に向上すれば、良くなると思います。
- 大学の方向性と構成員の目指しているものが一致していない。時期尚早な進め方にも問題があるが、コンセンサス形成を充分に取って欲しい。
- 独裁すぎる！
- 日本のトップクラスの岡山大学医学部のお医者さんには、偏差値50の学生さんを教育し、先端研究を行い、質を維持する大変さ、辛さ、苦悩は理解できるものではない。
- 非正規ばかりですぐに人事が変わるので、うまく対応がお互いに出来てない。
- 表面上だけ繕っているが、良い方向に進んでいるとはとても思えない。構成員(教員・職員・学生・地域の人)の幸せを考えてほしい。
- 分からない。
- 文部科学省のスーパーグローバル大学政策がそもそも問題点が多すぎる。その路線に乗っている大学も問題です。
- 方向性は誤っていないと思う。学生の英語力の獲得、自律的な行動力の育成を目指すことが必要であり、それらにプラスに向かっていると思います。

- 良い方向か悪いのか、判断不能。役所の言いなりの Yes man 大学で、地方大学の個性を十分に発揮できていないところ。Bottom-up は元より、middle-up の議論も、事実上無いに等しいので、叡智を結集できていない。(誰が学長になっても、大差なければ、地方大学の発展を期待できるのか。)
- 良い方向に向かっている。人材交流・優秀な人材の雇用が少ない(大分増えましたが)。中央への人材推進、予算獲得が必要。
- 良い方向に向かっているとは全く思わない。組織の規模、マンパワーに見合った組織改革をしていないことが問題である。全て部局にしわ寄せがきている。
- 良くも悪くもあまり変化を感じていません。